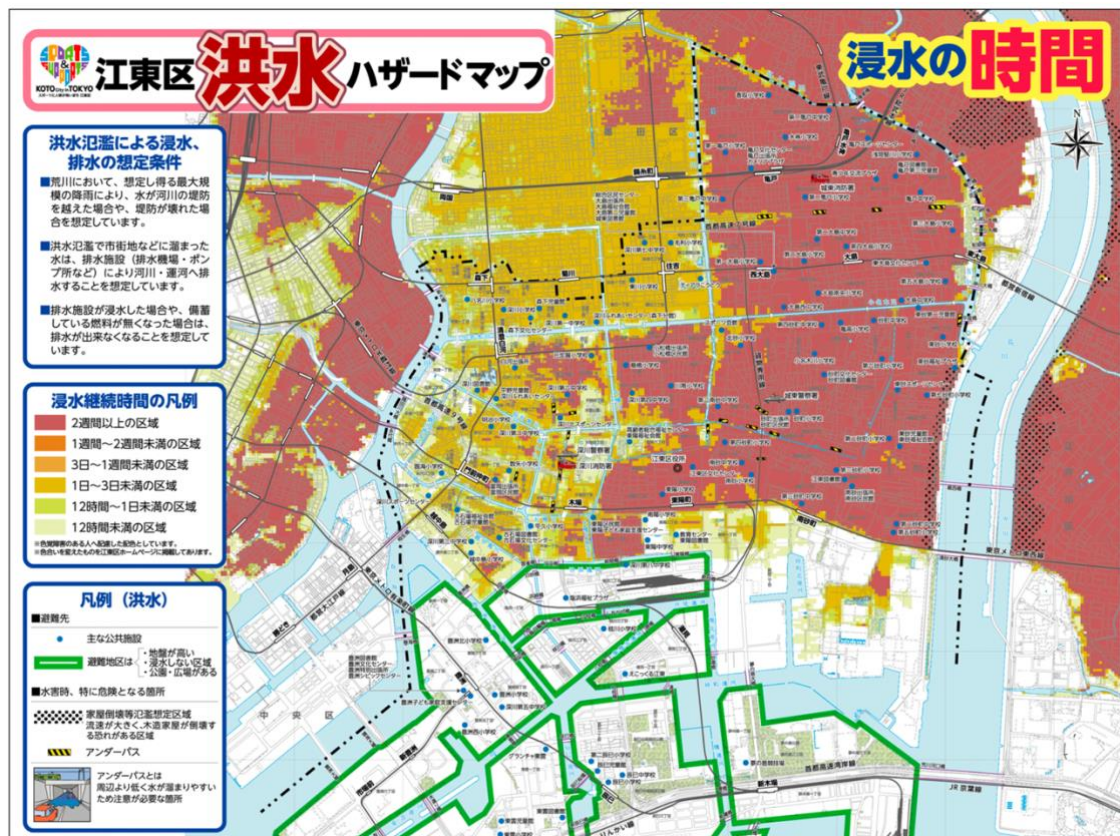


ハザードマップの見方① 浸水継続時間

- 一回目のアンケート調査で、「ハザードマップをよく知っている・知っている・見たことがある」と回答した人は 262 人中 232 人に上りました。
- ハザードマップでは水害が発生した場合の浸水範囲や水の高さが注目されますが、もう一つ重要な要素として、**浸水継続時間**（どの程度の期間、水に浸かった状態が続くか）があります。
- 例えば[江東区の洪水ハザードマップ](#)で荒川が氾濫した際の浸水継続時間を見ると、浸水する大部分の地域で 3 日間以上、一部地域で 2 週間以上の浸水が予想されています。



- 浸水継続時間の長い地域では、自宅の上層階や浸水地域内の避難所に避難して難を逃れたとしても、**浸水した地域では電気・水道・ガスの供給が停止する可能性があり、台風通過後の酷暑の中、劣悪な環境で何日も過ごす必要があります。特に都市部では膨大な数の人が浸水地域に取り残されるため、救助はすぐには来ないと考えてください。**

災害後の状況

なかなか復旧しないライフライン

ライフライン（電話、電気、ガス、上下水道など）の復旧に時間がかかることが予想されています。特に電気が長期にわたり使えなくなることが予想されています。



いつまでも水に浸かる江東区

想定される最大規模の洪水氾濫もしくは、高潮氾濫が発生した場合、江東区は荒川や東京湾の水位よりも低い地域が多いため浸水している期間が長期化します。

自宅に残った場合、その後の生活が困難となります。早めの避難を心がけてください。

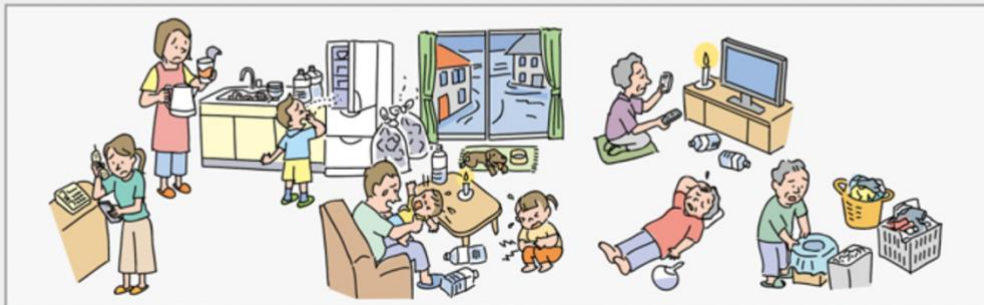


洪水氾濫の浸水継続時間が2週間以上の区域

避難生活の長期化

浸水が長期化する地域では、たとえ高層階にお住まいの場合であっても、その場所に留まって避難生活を続けることが困難となります。

浸水が長期化することにより、避難場所からしばらくの間自宅に戻れない事態が考えられます。非常用持出品（貴重品や生活用品など）は普段から身近に置き、いつでも持ち出せるようにしておきましょう。



- 実際に 2019 年の台風第 15 号では、千葉県の高齢者施設において停電により冷房が使えなくなり、熱中症で 11 人の入所者が発熱し、一人が死亡しました。

千葉停電、熱中症の死者 3 人目「電源車が来ていれば…」

台風 15 号支援通信

寺崎省子 2019年9月14日 1時44分

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷

[list](#) 27



千葉県は13日、同県君津市の特別養護老人ホーム「夢の郷」（定員80人）の入所者の女性（82）が12日朝、搬送先の病院で死亡したと発表した。熱中症などの疑いで治療中だった。台風15号による停電で、この特養では9日早朝から冷房が使えなくなっていた。台風の通過後、県が把握した熱中症とみられる症状の死者は3人目。

39度近い熱が出て、救急搬送される入所者の女性。翌日、搬送先の病院で亡くなった＝2019

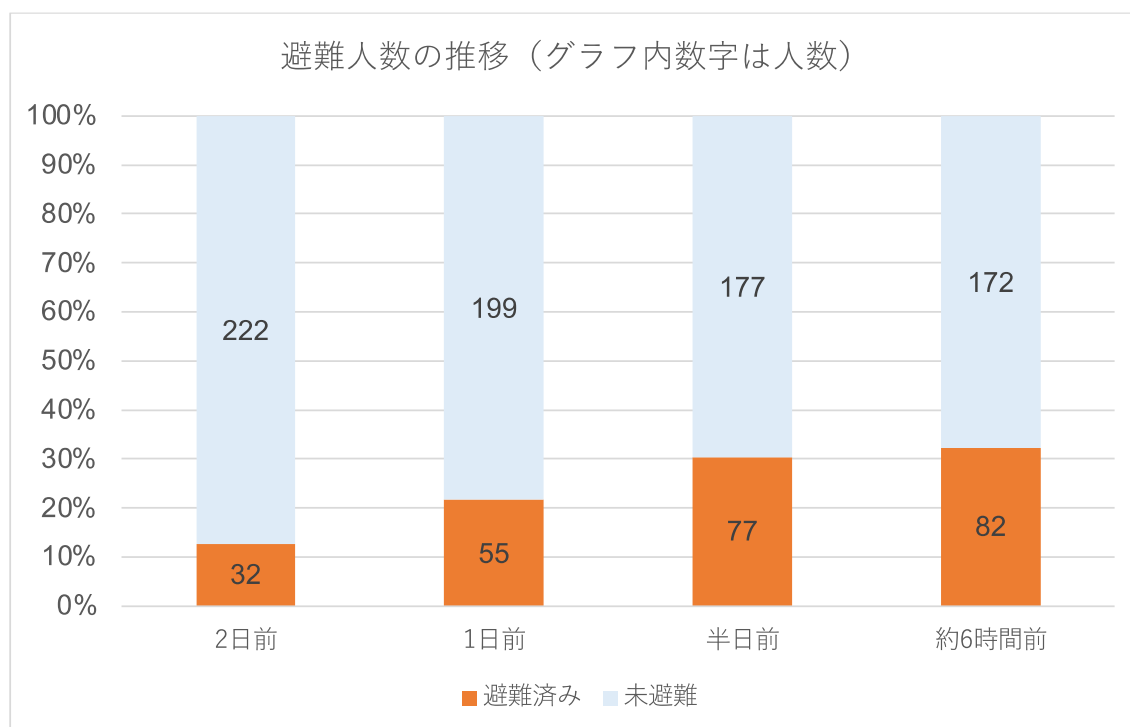
<https://www.asahi.com/articles/ASM9F6R9XM9FUDCB01W.html>

- 避難するかどうか決定する際に、水害発生時に自宅が浸水するだけでなく、**水害が発生した後の過酷な状況下で何日間耐える必要があるか**を、ハザードマップを見て想定しておく必要があります。
- お住まいの地域のハザードマップは「〇〇市 洪水 ハザードマップ」などと検索すると見つかります。

前回のアンケート調査の結果

- 3月11日から15日に参加者の皆さま254名に回答いただいたアンケート調査の集計結果を紹介します。
- アンケートでは、史上最大級の台風が接近している状況を想定し、台風上陸の2日前、1日前、半日前、10～12時間前、約6時間前に避難するかをお聞きしました。
- 実験の設定上、全ての回答結果をお示ししない場合がありますがご了承ください。

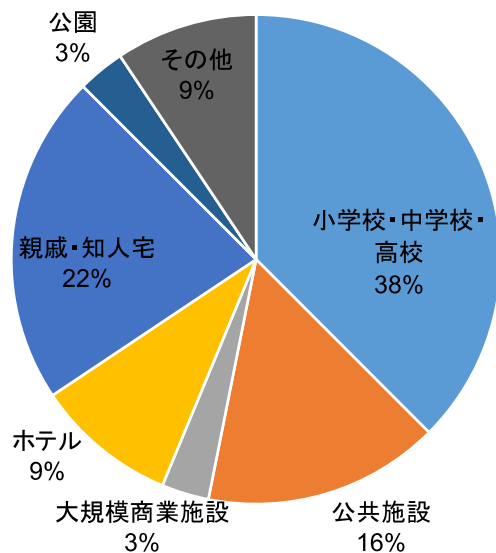
各時間で「避難する」と回答した人数の推移



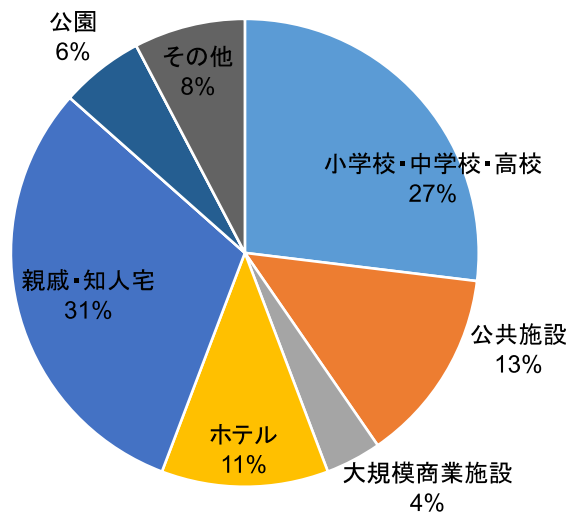
- 1回目のアンケート調査と比べ、「避難する」と回答した人が各時点において 20 名程度減少しました。
- 避難しない理由として 1 回目のアンケートから増加したものは、
2 日前：「災害発生する確率が低いと考えられる」
半日前以降：「避難先のイメージが低い」「避難先が混んでいる」が多く、他の人の回答を見て混雑を予想しながら避難行動を変更した人がいました。

避難先の施設の種類

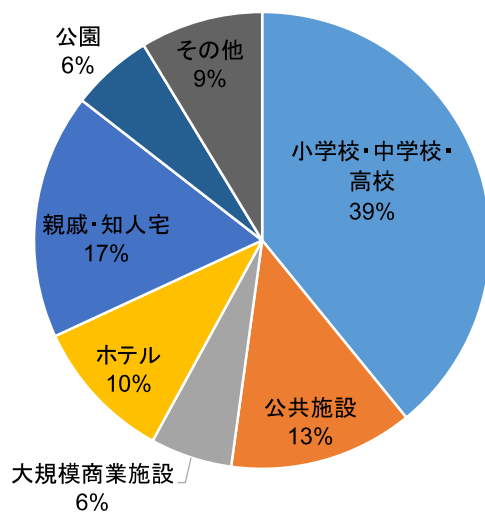
避難先の施設種別（上陸2日前）



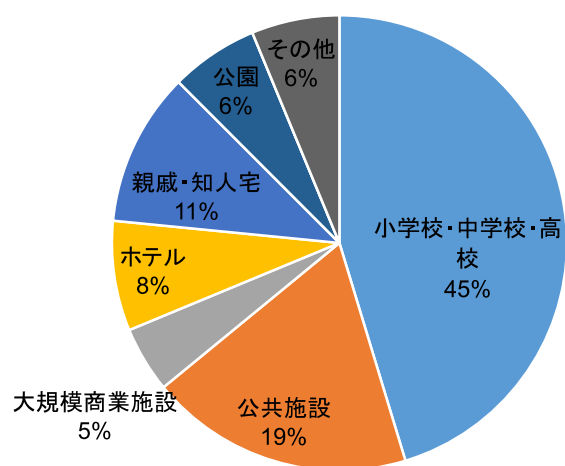
避難先の施設種別（上陸1日前）



避難先の施設種別（上陸半日前）



避難先の施設種別（上陸約6時間前）



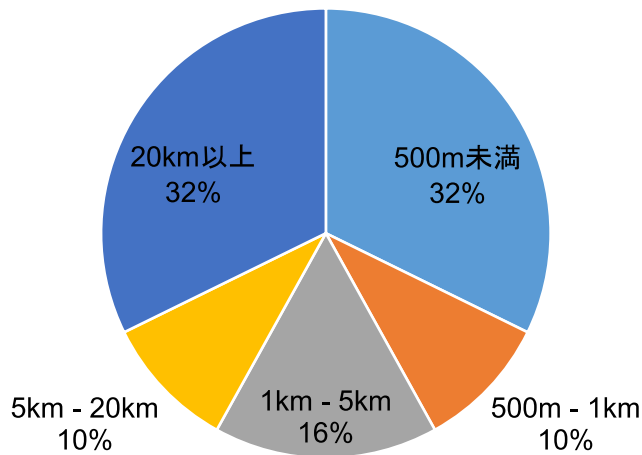
1回目のアンケート調査から変化があった点は、

- 親戚・知人宅、ホテル、公共施設を選ぶ人の割合が増加
- 特に2～1日前に親戚・知人宅を選ぶ人の割合が10%程度増加
- 上陸2日前に学校を選ぶ人の割合が減少

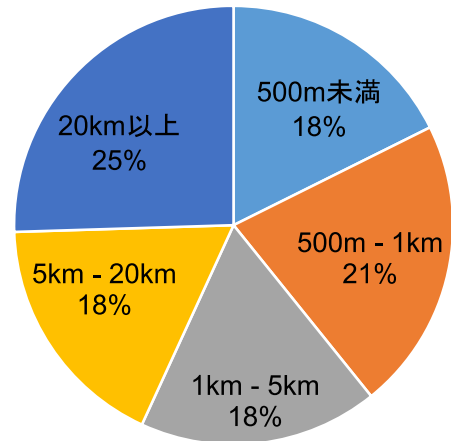
避難先までの距離

※事前に伺っていた住所とアンケート回答結果からおおよその距離を算出しました。

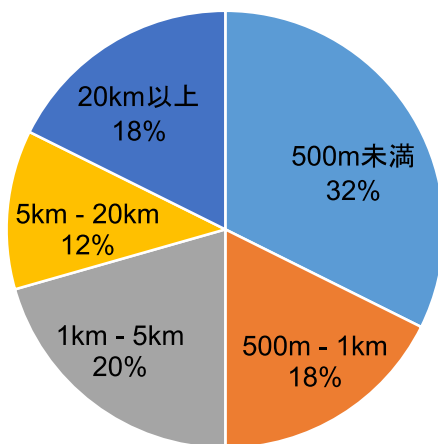
避難先の自宅からの距離（上陸2日前）



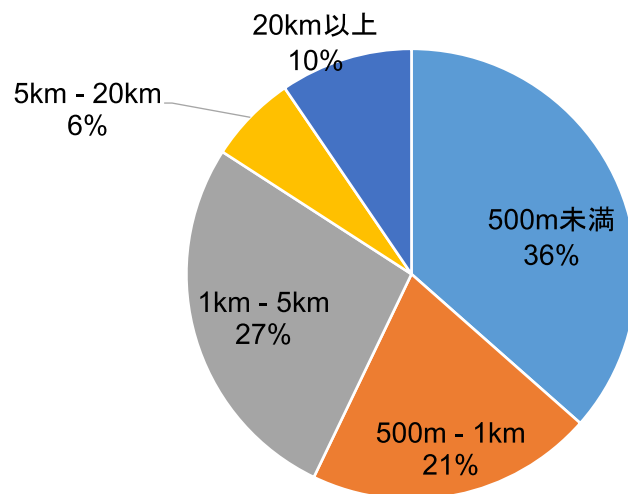
避難先の自宅からの距離（上陸1日前）



避難先の自宅からの距離（上陸半日前）



避難先の自宅からの距離（上陸約6時間前）

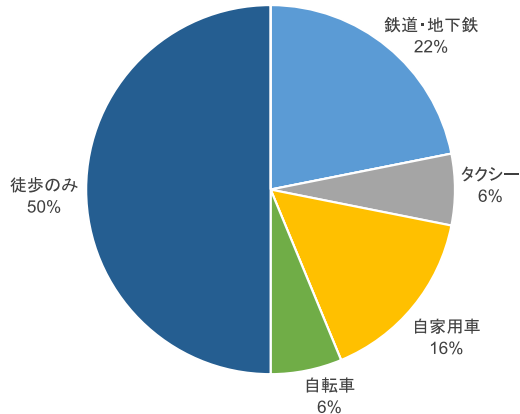


- 自宅から 20km 以上先の遠方を避難先を選ぶ人が増加。特に台風上陸 2 日前では 3 分の 1 を占めます。
- 自宅から 500m 未満の避難先を選ぶ人が減少。
- それでも上陸当日は 1km 以内の避難所を選ぶ人が半分以上を占

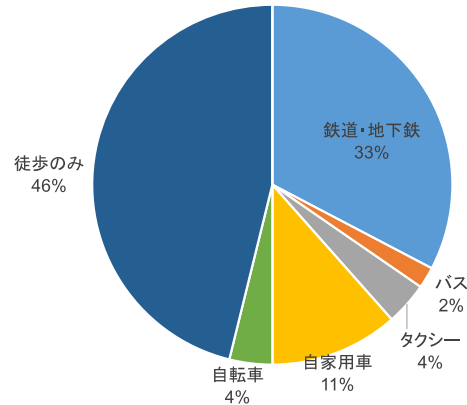
め、自宅近くの避難所には多くの人が詰めかけると予想されます。

避難先までの距離

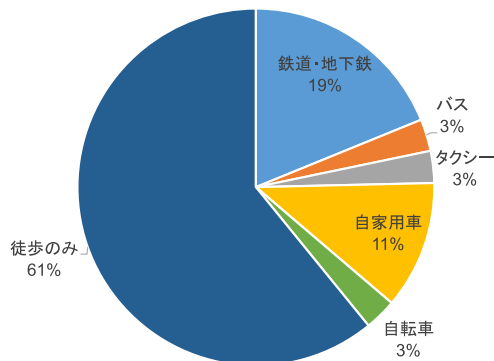
避難先までの交通手段（上陸2日前）



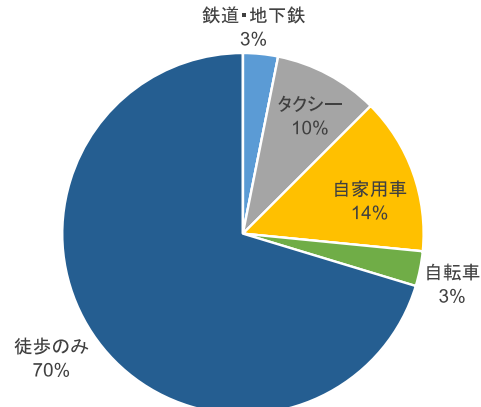
避難先までの交通手段（上陸1日前）



避難先までの交通手段（上陸半日前）



避難先までの交通手段（上陸約6時間前）



- 遠方の避難先を選ぶ人が増えたため、鉄道・地下鉄と自家用車の選択が増加。
- 自家用車の選択割合が増加すると、川を渡る橋や高速道路入り口などで大渋滞が発生すると予想されます。健康な人が、水害が発生する直前に自家用車を使って避難することは、危険な行為と言えます。

今回の配信資料は以上です。

引き続き調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

なおアンケートの回答は、お住まいの市区町村における状況を想像して回答をお願いいたします。「もし江東区に住んでいたら～」と想像する必要はありません。